

黒松

栗山政子

坂下りて坂の名を知る黄落期
 火恋し黒松の幹迫り来る
 花すすき雨後の雫を払ひ合ひ
 霧深しみんなの声が荒くなる
 凧や真つ黒な鯉ひるがへり
 投函の後の手ぶらや十二月
 青空へ吸ひ込まれゆく枯野かな
 白菜太る大きな鳥の影よぎり
 ばきばきと放つ返事や冬木の芽
 あつぱれな空から空へ探梅行